



☆☆☆ 学びの羅針盤 ☆☆☆

Learning Compass

きたえ ふれあう 富沢っ子

子どもたちを笑顔で迎え 笑顔にさせ
保護者・地域に帰します！



◇教育目標：夢をもち 未来を拓く子ども

◇重点目標：人・社会・未来とつながるWell-being2022 ～学び合う・教え合う・認め合う・助け合う・励まし合う子どもの育成～

夢中になってしまうネット・ゲームに家庭でのルールづくりを！

校長 大野 昌広

10月15日(土)に学芸発表会を行いました。多くの保護者・ご家族・地域の皆様のご来校に対して心からお礼申し上げます。躍動する子どもたちにあたたかな拍手。子どもたちの成長につながりました。

令和4年度全国学力・学習状況調査の本道の結果が7月末に公表されました。その一部を見ると、「小学校のすべての教科で全国の平均正答率との差が縮まるとともに、小学校の理科が全国の平均正答率とほぼ同水準となるなど改善の傾向が見られる」「本道の児童生徒は、全国に比べて1日の学習時間が短く、テレビゲームをする時間が長い傾向が見られる」などという分析。学力向上と生活習慣の改善は、本道教育が抱える課題のひとつであり、いろいろな取組施策を打ち出しているものの、決定打となるめざましい改善がみられないままというのが実情です。このうちネット・ゲームについては、本道のみならず全国の小中高生の課題であり、世界中の若者の深刻な問題になっています。

全国初「香川県ネット・ゲーム依存症対策条例」

2020年3月、香川県議会定例会で全国初となる「香川県ネット・ゲーム依存症対策条例」(ゲーム条例)が賛成多数で成立しました。香川県が条例制定した背景には、子供の深刻なネット・ゲーム依存の実態に加え、世界保健機関(WHO)が「ゲーム障害」を国際疾病のひとつに認定(2019年5月25日認定、2022年1月25日発効)したことが大きな要因です。世界保健機関(WHO)によると、「ゲームをしたい欲求を抑えられない」「ゲームをすることを他の日常生活の活動よりも優先してしまう」「家族関係、仕事、学習などに重大な問題が生じていてもゲームをやめることができない」といった症状が12ヶ月以上続いた場合、ゲーム障害と診断されると示しています。ただし、特に進行の早いとされる幼少期においては、症状によって短い期間でも依存症とみなされるようです。香川県の条例は、子供と県民をネット・ゲーム依存症から守るための対策を総合的かつ計画的に推進することを目的としています。条例には、県、市町、学校等のそれぞれの立場での責務や役割が定められています。保護者には、ネット・ゲーム依存症から子供を守る第一義的責任は「保護者」にあると明記され、子供の状況を適切に把握することやフィルタリングの利用等によりネット・ゲームの利用を適切に管理する責務があることを定めた上でスマホ使用のルールづくり及び見直しの目安となる使用制限等が示されています。その内容は、下記の通り。なお、この条例に罰則規定はありません。

18歳未満のゲーム時間は1日60分、休日は90分。

スマホ使用は中学生以下が午後9時、それ以外は午後10時まで。

この条例に対して、スマホ依存の軽減などへの期待から賛成の声がある一方で、批判の声も出ています。香川県弁護士会は「条例は制定の根拠が十分ではない」「憲法や『子供の権利条約』にも反する部分がある」として条例廃止を求める声明を出しているほか、香川県内の大学生が「憲法違反」として県を相手に損害賠償を求めて提訴をしています(※高松地方裁判所は条例の目的は合理性があり、憲法に違反しないと判断し、訴えを退けました)。

□子供を取り巻く現状を保護者・地域の方々と共有することの大切さ

ネット依存専門の外来診療を国内で先駆けて始めた神奈川県横須賀市にある国立病院機構久里浜医療センターの調査によると、平日のゲーム使用1時間を超えると学業成績の低下が顕著であるという分析をしています(※インターネット依存・ゲーム障害治療施設(病院)は、全国約80カ所あり、北海道内は札幌・小樽に9施設あります)。

北海道教育委員会が作成した啓発資料「時間の目安を決めて 子供の生活リズムを整える!」では「テレビやゲーム、インターネットや携帯電話など学習以外でメディアに触れる時間」は「1日合計2時間以内」という目安を示しています。本校も、この啓発資料を配布し、指導を地道に繰り返しているところですが、劇的な改善はみられません。

ネット・ゲーム障害で「依存症」という状態に陥る大きな原因は、「人間関係のトラブル」にあるそうです。特に子供の場合だと、「教師との関係」「学校の同級生」などとの関係が悪化したり、いじめにあたりというストレスのはけ口として、逃避できる何かを求めた結果「依存症」になってしまったケースが多いそうです。したがって、依存症になる原因の深刻さや自己管理できない状況を考えて、単純にゲーム時間を制限するなどの対応は、改善策としては効果的ではありません。保護者や地域の方々などの大人たちが子供の現状に関心をもつこと、そのうえで、「対話」の機会を重ねることが大切だといわれています。ネット・ゲーム障害も含め、現在の子供を取り巻く状況を保護者や地域の方々と共に共有していくことが、望ましい学習習慣・生活習慣の改善・定着の第一歩。ただし、多くの子どもたちは、ネット・ゲーム障害と呼ばれるまでの深刻な状況ではありませんが、現状、「約束」が作られてなかったり、守られてなかったりする状況ではないかと思えます。「対話」を経て、時間等の「約束」をすることが望ましいです。

前号でご案内したとおり、本校の後期重点教育目標は、「つながり」を重視し、一人一人の子どもの幸せの実現を目指しています。良好な人間関係から良い刺激を受け、学習・生活習慣が改善されるよう引き続き指導をまいります。保護者・地域の皆様のご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

クリーンデー

10月25日(火)「クリーンデー」として、地域の清掃活動を行いました。縦割り班の活動で、準備も児童会が行いました。

前日に「明日は気温が下がることが考えられるので温かい服装を準備してください」と下級生に伝えるなど、見通しをもった細やかな配慮に感心しました。

子どもたちは、落ち葉を踏む音を楽しみながら、ゴミ拾いができました。



学芸会

10月15日(土)学芸会には多くの皆様のご来場、本当にありがとうございました。



1年生によるかわいらしい「はじめのことば」に始まり、全校での「One～歌う星」を聴いていただきました。



富沢っ子とこの曲との出会いは校長が以前勤務していた学校で取り組んでいたことがきっかけでした。「元気で前向きな富沢

の子どもたちにも歌ってほしい」と考え楽譜探しを始めましたが、一般には流通しておらず、カズン所属の音楽事務所に直接、連絡をとりました。早く、練習用の資料やCDをサイン付きで送っていただくことができました。子どもたちもすぐに気に入って、6年生の齊藤さんが振り付けを考え、全校で発表することができました。「♪自分らしく輝いて世界は one になる♪」これからも富沢っ子全員で歌い継いでいきたいと考えています。



子どもたちの熱演が続き、6年生「おわりのことば」。胸をはって立派な態度で成長をした姿をお見せすることができました。



係活動に、ステージに大活躍の富沢っ子。自分らしく輝いていました。

※記録用に撮影した当日の動画をご希望があればお貸しします。ご希望の方は教頭までご連絡ください。

稲穂の行方



9月に刈り取った稲。脱穀の体験をしています。お椀やざるで挑戦です。「お米を無駄にできないね」「一粒一粒大事だね」との声。貴重な体験です。この後は玄米にする作業が待っています。

読書月間

11月は児童会の活動の一つとして「読書月間」に取り組みます。読書クイズなどを行い読書に興味をもってもらう取組をします。また、朝学習の時間を「朝読書」として、本と親しむ時間を増やします。

子どもの読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、より深く人生を生きる力につながります。

また、読書はストレス軽減にも効果があります。読書をすることでストレスの原因となる現実のことから気持ちが離れ、本の内容に没頭することができるからだそうです。

秋の夜長、お子さんと一緒に本を開いてみませんか。



11月の予定

- 3日(木) 文化の日
- 7日(月) 新日課スタート
- 11日(金) 旭複連研究大会
- 14日(月) 北北海道学生書道展に向けての特設書道教室
- 18日(金) 開校記念日
- 22日(火) ボッチャ講習会
カムイ大雪バリアフリー研究所から講師をお招きし、講習会を行います
- 23日(水) 勤労感謝の日
- 24日(木) クラブ
- 25日(金) 発表集会(中学年)
- 29日(火) ふれあいお楽しみ会

11月7日(月) 新日課の試行期間となります。水曜日の下校は14:35、金曜日の下校は14:25です。ご協力をお願いします。

また、過日お知らせいたしましたように11月11日(金)は研究大会のため下校時刻に変更があります。1~4年生は12:50(給食あり)5・6年生は14:20です。都合によって、お迎えが遅れる場合は、学校で待機していただくことも可能です。事前に学校までご連絡いただけますようお願い申し上げます。